

はじめに

情報メディアセンター長 龍 昌治

大学で情報処理教育が行われるようになって、久しい。本学においても、情報処理センターが設置され、汎用機を用いたコンピュータ教育・プログラミング教育の黎明期からはじまり、幾度かのシステム更新やカリキュラム変更をへて、現在の情報リテラシー教育へと引き継がれています。この間、使用される情報機器は、汎用機とその専用端末という構成から、ローカルエリアネットワークとパーソナルコンピュータへと変化しています。対象となる学生も、計算機科学やプログラミングを学ぶ一部の学生から、いわゆる文科系の全学生へと大きく拡大してきました。一部の学生を対象にした汎用機を用いたコンピュータ教育を、第1期情報教育とよぶなら、第2期情報教育は、全学生向けのパソコンを用いたパソコン操作教育といえるでしょう。

2003年度から実施されている高等学校等の情報教育は、「情報活用の実践力」「情報の科学的理解」「情報社会への参画」の3要素で構成されています。このカリキュラムで学んだ学生たちが、大学に入学する2006年度に向けて、各大学では情報教育カリキュラムの改訂が計画されています。大学における第3期情報教育ともいえる今回のカリキュラム改訂は、単なる操作教育ではなく、真の意味での情報リテラシー教育への転換が求められています。すなわち、情報科学や技術を理解しつつ、課題発見や問題解決のツールとして、主体的に情報を扱える能力の育成です。次世代の社会を構成する若者たちにとって、欠くことのできない能力のひとつでしょう。

大学における情報教育の中心をになってきた、情報メディアセンターの果たすべき役割や機能も、少しずつ変化が必要です。単なるハコモノとしてではなく、学生や教職員にとっての活動の中心であり、HUBとしての機能が求められています。このセンター機能は、ユーザの皆さんが求めてこそ、価値を発揮するものです。“使える”センターとして、なお一層、学生や教職員の皆さんのご利用・ご協力をお願いいたします。